

“KIDS ART WEEKS”

こどもの感性と創造性を育む
五感をとおした美的経験によるアートプログラム開発Ⅲ

鈴木 光男(聖隷クリストファー大学 国際教育学部)
協力:坂田芳乃 氏(アルテ・プラーサ代表)

KIDS ART WEEKS 事業の目的

不透明な時代を生きる子供たちへ

- ・ **求められる力**: 「何かを生み出し新しいものを創りだす創造性」
- ・ **現代社会の課題**: AI社会における間接的体験の増加、直接感覚を刺激する機会の減少
- ・ **本事業の目的**:
 - 。 「五感をとおした美的経験」に基づき、感性と創造性を育む環境・機会を提供
 - 。 体験・表現・対話を通じて、多様な見方を知り、自由に独創的な発想を育む
 - 。 多様な世界への視野を広げ、非認知能力を培う未来の人づくりを応援

KIDS ART WEEKS 事業の概要

スクールミュージアム

アーティストの作品を小学校で2週間展示

- 。 子供がアートに身近に接する機会を創出
- 。 作品展示・鑑賞だけでなく、アーティストとの直接交流の場を設置
- 。 子供たちの思いや考えで作品を展示する機会を提供
- 。 障がいのある子供たちとの共同製作機会の提供
- 。 多様なアートプログラムの提案

モデル事業:三島市立錦田小学校で実践

普及・啓発:成果を県内の校長会や教育委員会などに配布

KIDS ART WEEKS 開催概要

開催期間: 2025年1月14日(火)～2025年1月24日(金)

会 場: 三島市立錦田小学校

事業概要: 2週間にわたる本事業は初の試みであり、
国内外から注目を集めた。

参加アーティスト

白砂勝敏: 音楽を奏で、身近な材料による立体造形を専門とする。野外展示作品制作が得意。

ナガタトシヒロ: 富士宮市を拠点に活動。立体と平面を巧みに組み合わせた、物語性のある作品を制作している。

奥村祐喜: 沼津市の芸術家グループ「風土」に属する。子供が触れることができる作品づくりに努め、芸術教育の視点を持つ。

永治晃子: これまでのアートワークショップ等での子供の作品をインスタレーションとして表現する。アーティストの作品と子供の作品のコラボレーションも試みる。

二村有音: 自然物を使った平面、立体、インスタレーション作品を制作。

奥野晃士: かつてSPAC-静岡県舞台芸術センターに所属。現在は舞台演出、出演、演劇講師として活動している。

事業の様子と空間の変容

学校が美術館に！

- ・ ランチルームが「錦田小美術館」に変身 ／ 図書室は「美術館分館」
- ・ 日常的に作品やアーティストと交流

公立小学校にアーティストが関わり、作品展示、パフォーマンス、子供との対話・交流を通じて、これまで以上の造形的な雰囲気になった学校へと変わっていった。

作品を展示するアーティスト紹介

しらすな かつとし

白砂 勝敏 (美術家・演奏家)

私は物をつくるのが楽しくて楽しくて仕方ありません。身の回りにあるものを使い絵画や彫刻や音の出る作品をつくり演奏もしています。

私や他のアーティストの作品をみて、「人と違っていてもいい、自分の思いを自由に広げてもいいんだ」という気持ちが伝わると思います。

今回の作品をみる体験、つくる体験の中からみなさんなりの、つくる楽しさ、みる楽しさを発見してくれたらいいなあ。



作品のある場所
中庭・
ランチルーム



ナガタトシヒロ (美術家)

富士山のふもと朝霧高原で、絵画や造形（動物など形のある物をつくる）などのアートが続けてるんだ。絵と形のあるモノを組み合わせながら、まだ見たことのない地点を目指し、作品づくりをしているよ。アートって何だろう？きっと、冒険のようなもの。ワクワクするようなもの。4人のアーティストの作品をみて、何か感じてくれたら、見えないものが見えたらおもしろそうだね。もっと面白いのは自分でやっちゃうことなんだ。アートって何だろう？ポクラと一緒に冒険しよう！



作品のある場所
図書室



おくむら ゆうき

奥村 祐喜 (美術家・中学校教諭)

沼津市の中学校で美術教師をやりながら、いろいろな素材を組み合わせる（ミクストメディア）ことや、触れる作品をつくっています。美術グループで、作品づくりの勉強会もしながら、展覧会では、みる人とアーティストと一緒に作品づくりをしています。

みんなが「さわる作品づくり」に挑戦できるよう、「いろのたわむれ」のピースをたくさん用意します。このピースを使って、友達や先生と今まで想像もしていない世界を体験してみよう。みんなと会えることを楽しみにしています。



作品のある場所
ランチルーム



ながや あきこ

永冶 晃子 (美術家)

「インスタレーション」という空間を体験してもらう美術作品を作っています。マイクを手に音を探しに行ったり、木材で大きな物を作ったり、絵を描いてイメージを表現したり。そんな全てが私にとっての制作です。その中で出てくるイメージをつなぎふくらませて、一つの作品に仕上げていきます。

みんなは毎日の生活で「時間」を考えることはありますか？すごく長く感じる10秒もあれば、あっという間に過ぎてしまう3時間もあります。いつもとちょっと違った学校は、みんなにとってどんな時間を感じる場所になるのかな？楽しみにしています。



作品のある場所
ランチルーム



こんにちは、
アルテ・プラザです。
(意味：アートの広場)

きれいだなぁとひろった石、
手にどんな感覚が伝わってきた？
石の形や模様は覚えているけど、
さわった感覚はあんまり
気にしていないよね。
いつもは気にしていない、
聞いたり、さわったりする
感覚に気づいたらおもしろい
と思わない？
たとえば川の音を聞いたら、
どんなイメージがわく？
みんなが持っている想像力を
みせたい！ こういうことが
できるアートをもっと知って
ほしいと、アーティストと
一緒にワークショップなどの
活動をしています。

ウェブサイト、見てね！



KIDS
ART
WEEKS
キッズアートウィークス

ねん くみ
なまえ

イラスト：マツナガマサエ デザイン：HAHIRE LLC

2025.1.14 火 ～ 1.24 金 三島市立錦田小学校

第1回

KIDS ART WEEKS
小学校が
アートで
いっぱい！
2025 NISHIKIDA MISHIMA

こちらから動画を視聴できます↓



キッズアートウィークスで印象・思い出に残ったこと(複数回答可)6年生

- 昼休みに自由にアーティストの作品を学校で見られたこと
- さわれる展示（てんじ）で作品をつくったり、あそんだりしたこと。
- 図工の時間にクラスでいろいろな作品をかんしょうしたこと
- ワークショップでアーティストから直接話を聞くことができたこと（6 ...
- 自分ではがき絵をかいたこと
- はがき絵を見たこと
- その他

38

40

53

23

5

11

4

0

20

40

60

事後振り返り
子供たちの反応

KIDS ART WEEKS
事後振り返り
子供たちの反応

学年ごとの興味の違い

- ・ 低中学年：
 - 。 「触れる展示で作品をつくったり遊んだりしたこと」
 - 。 「三年峠の絵を描いたこと」
 - 。 思うままに表現活動を楽しんだ様子
- ・ 高学年：
 - 。 「図工の時間にクラスでいろいろな作品を鑑賞したこと」
 - 。 アーティストや既存のアート文化への関心が高まる傾向

子供自らが遊び、自身のアート文化をつくり出すことに関心のある低中学年までと、既存のアート文化に関心を寄せ始める高学年との違いが伺える。

KIDS ART WEEKS
事後振り返り
先生たちの反応
と課題

高い評価と持続可能性への視点

非常に好意的な評価:

- 。「子供がアーティストの作品を直接鑑賞できた」
- 。特に「子供がアーティストとふれあえた」ことへの評価が高い
- 。多忙な学校現場でも、価値ある経験や多様な人とのふれ合いを求めるニーズが明確に

今後の課題:

- 。「今後の学習活動・学校教育」への新たな期待と理解をもとにした本事業の意義や価値の共有化
- 。持続可能な形での展開、学校側の負担軽減
- 。アーティストの意図と活動内容の明確化・共有化
- 。対話型鑑賞授業の展開と教師の関わり方の深化
- 。「身体の解放・連体」「共鳴する身体形成」のさらなる実現

“KIDS ART WEEKS”

今後の展望と教育的意義

AI社会におけるアート教育の重要性

- ・ **KIDS ART WEEKSの教育的キーワード:**

- 「身体の解放・連体」と「共鳴する身体の形成」

- ・ **アートプログラム開発の根底:**

- 。「身体の解放」を前提とした自発的・自由な自己表現

- 。「身体の連体」を前提とした主体的・他者との共同創造

- 。「共鳴する身体の形成」を企図した子供も大人も双原因性感覚を軸とした創造・表現の展開

- ・ **カリキュラム段階:**

- 低学年「あそぶ」、中学年「(子供ならではのアート文化を)つくる」、高学年「(既存のアート文化に)いどむ」

- ・ **AI社会への示唆:**

- 「手間暇かけて文化(CULTURE)をつくる学校教育」の重要性

- ・ **学校教育のパラダイム転換の可能性:**

- いじめや不登校問題の改善、教師の成長型マインドセットへの改変

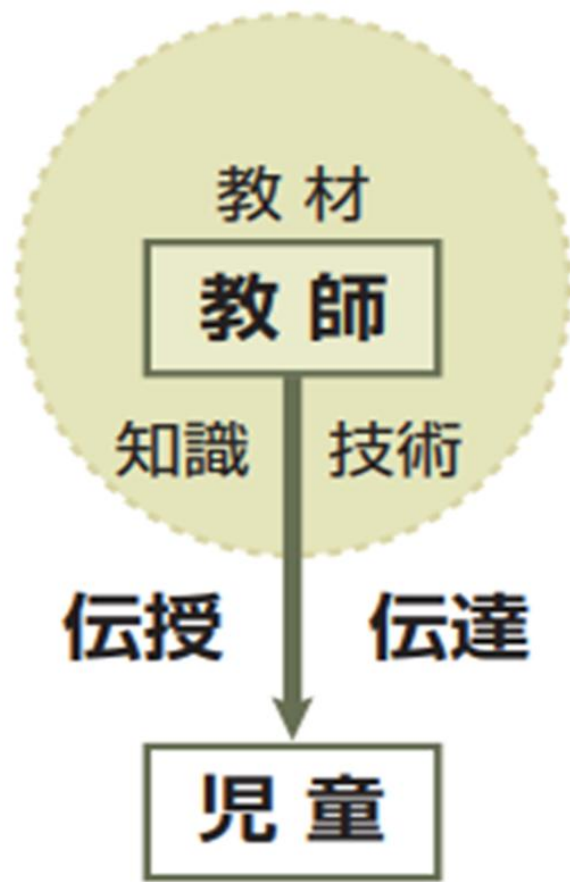


図1 伝授・伝達型の
教科学習モデル

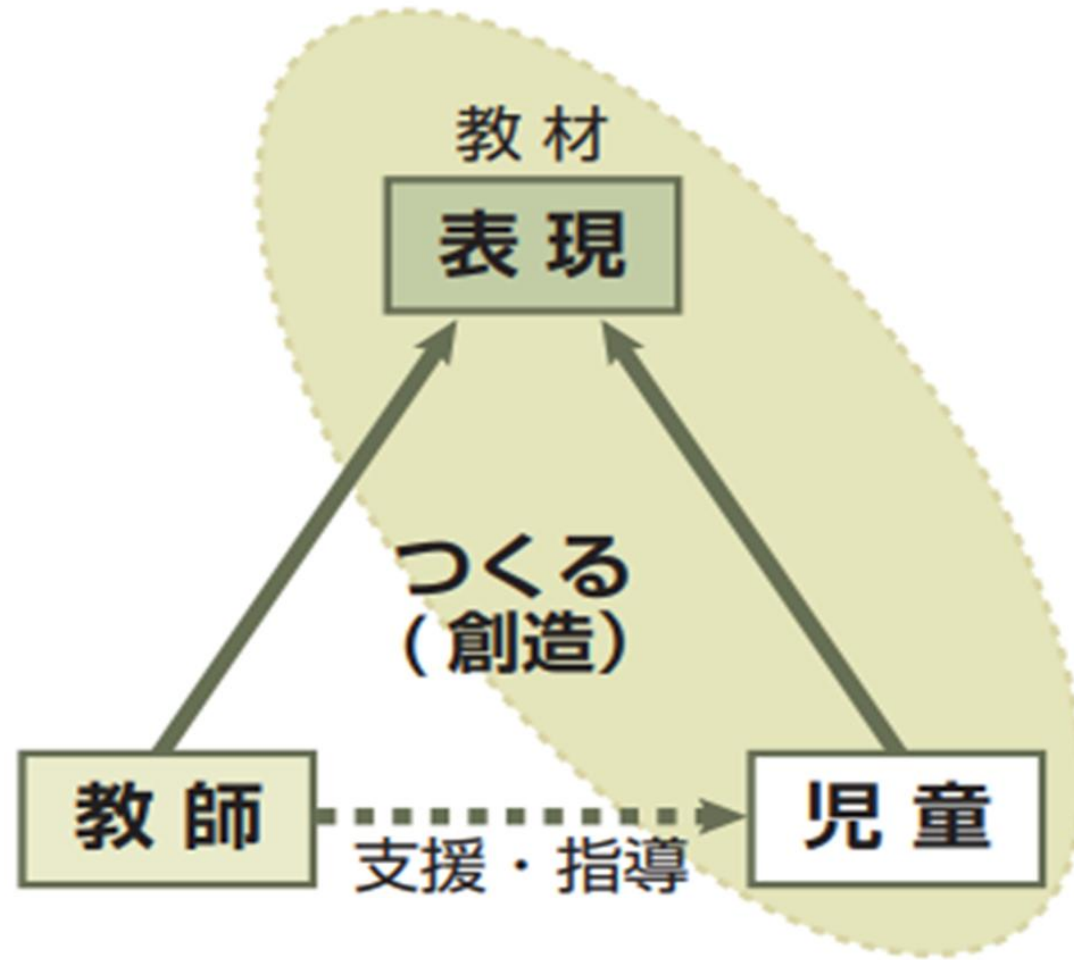


図2 よりよい表現を求める創造型の教
科学習モデル

鈴木光男「第3章 図画工作科」『美術教育概論(新訂版)』日本文教出版より

ご清聴ありがとうございました。

“KIDS ART WEEKS”

こどもの感性と創造性を育む
五感をとおした美的経験に
よるアートプログラム開発Ⅲ



アンケート調査結果・画像・動画資料は、アルテ・プラーサから提供されたものです。
本研究発表は、2024年度聖隷クリストファー大学地域連携事業費によるものです。